

授業改善プラン

地域名	北総教育事務所	学校名	旭市立干潟小学校
-----	---------	-----	----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和2年度全国学力・学習状況調査の平均正答率から、領域別では「数と計算」・「図形」、観点別では「数学的な考え方」、問題形式では「記述式」に課題がみられた。
- 誤答分析の解答類型から、問題文を解釈し、解決に必要な情報を取り出し、その情報を基に設問に答えることに課題があることがわかった。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- ①見出す場面で素材や問題提示の仕方を工夫することで、児童の学習意欲が高まり、問題解決に主体的に取り組むことができるであろう。【素材や問題提示の仕方の工夫】
- ②自分で取り組む場面で、問題を整理する力を付けるための工夫をすることで、見通しをもって自力解決に取り組むことができるであろう。【問題を整理する力を付ける工夫】
- ③広げ深める場面で対話活動を取り入れ、児童が自分の意見をしっかりと表現し、話合いの中で学びが深まるような手立てを講じることで、数学的な見方・考え方を働かせながら主体的に学習を進めることができるであろう。【対話活動の工夫】

3. 具体的な実践

- 仮説検証のために行った主な実践例
- ①【素材や問題提示の仕方の工夫】第5学年の「三角形の面積の求め方」を考える際に、素材の三角形を一部から全体へと徐々に提示することで、前時で学んだ平行四辺形と形が似ていることに気づき、平行四辺形に形を変えることで、面積が求められるという見通しをもつことができるようにした。
- ②【問題を整理する力を付ける工夫】第6学年の「拡大図・縮図」の学習において、素材から得られる情報を整理して表にまとめた。その際、どう整理したらわかりやすいかを確認しながら進めることで、解決に必要な情報を見極め、整理し、演算を決定する方法を理解することができるようにした。
- ③【対話活動の工夫】第4学年の「概数の使い方と表し方」の学習において、マトリックス図を用いて、元の値段、四捨五入、切り上げのそれぞれの計算方法が、計算の簡単さ、答えの正確さ、目的に合っているかを、○・△・×のように記号で整理した。この図を手がかりに、文章での表現が苦手な児童も、自分の意見をもって対話することができるようにした。

4. 成果

- ①事前事後の調査では、算数を好む児童数が10%程度増え、授業の様子を見ても、自力解決や話合い活動に主体的に取り組んでいる児童が増えている。
- ②ノートに自力解決の方法を児童自身の言葉で書ける児童が増えている。必要な数量等に線を引き、図や表に整理し、演算を決定して式に表すという流れを繰り返すことで、情報整理の仕方を身に付けることができ、見通しをもって学習を進めることができるようになったと考えられる。
- ③「自分の考えを友達に伝える」ことができると答える児童が増えている。ノートやワークシートにまとめた上で話し合うという流れを各学年で行ったが、それらを活用しながら活発な意見交換が行われており、有効な手立てだったと考えられる。

◆担当指導主事から（北総教育事務所 指導主事 吉田 純一）

- 研究授業のみならず、学校全体で同じ目標を持ち、各学年の実態に応じた手立てを工夫しながら日々の授業に取り組んでいる。大変意欲的で、主体的な研修を繰り返しており、その結果が、授業の変容、また児童の変容につながっている。
- 素材の工夫や、素材を生かす提示方法の工夫、問題を整理し、理解する力を付けるための工夫、適切な場面での対話活動と、それをより効果的に行うための工夫など、他の小学校はもちろんのこと、中学校でも大変参考となる実践であった。